

組織拡大・体制拡充の実現は身近なとりくみから 地域・職場を越え、大きな発展をめざそう



各地の代表者が集まり国土交通労組のとりくみについて活発な議論を展開

11月23〜24日にかけて、国土交通労組は第1回拡大支部代表者会議を開催し、支部・地協・本部あわせて81人が参加しました。会議では、秋期年末闘争の主な経過と到達点について確認するとともに、春闘にむけてのとりくみ方針や国土交通労組を活性化するための組織拡大について活発な議論が交わされました。

職員を顧みない働かされ方に 職場の疲弊は限界

本部から、秋期年末闘争の主な経過と到達点について報告を行ったうえで、この間多発している災害への対応状況や、春闘にむけての各地協、支部における重点課題に対するとりくみ・方針が提起されました。

参加者からは「予報業務の集約や定員削減により、自治体の期待に応えることも難しい状況。災害への対応については体制の拡充はもとより、災害経験を全国で共有し、今後活かす必要がある」と、

い、各分会が動かなければ財務も動かないことが分かった。合庁においては、関係機関と調整すること。職場では細やかな対応が必要(九州気象支部)など各職場段階の奮闘が報告され、全体で共有しました。これら報告された課題とあわせて解決にむけてとりくみをよりいっそう強めることを意志統一しました。

「関中気象支部」(現場が主体となった災害対応が必要と再認識した。災害対応のため派遣した場合の労働条件や細かい業務など、当局に改善を求めた(近畿建設支部)、「マイナンバーカードに



曖昧な制度には当局との調整が重要と訴える
九州気象支部
雑山副委員長

業務が維持できる体制の確保 新たな体制拡充署名の発展を

体制拡充署名については、国土交通省や関連独立行政法人にはたらくなかまの総意である「体制拡充・大幅増員」の一点のみを訴えるあらたな請願署名として、これまで以上にとりくみを旺盛にすすめていくことを意志統一しました。国会議論において、相次ぐ災害への対応などに関連し、自民党議員からも国土交通省の体制強化に言及する

全てのとりくみはなかまとともに 組織拡大・強化への決意を固めよう

組織拡大・強化は国土交通労組全体の最重要課題として、本部から新たなとりくみの提案とともに、参加者からも多数の報告や決意表明がありました。



つなかりを大切にすることを重要と報告する
九州港湾空港支部
山川支部長

参加者からは、これまでの組織拡大などの状況について、「採用された当時は加入することが当然で、職場に核となるベテラン組合員もいた。それを懐古してもダメで、いまの状況にあったとりくみを再構築しなければいけない。若手やその先輩世代のつながりを大切に、そのつながりを強めていくことが必要(九州



決められており、毎年のように職員が減らされている。独法職場の実情をしっかりと訴え多くの署名を集約したい(運輸研究機関支部)など、あらためて体制拡充署名の意義と重要性を確認し合い、あわせて、前年度の反省をふまえつつ、より活発なとりくみを行うことを全体で意志統一しました。

決められており、毎年のように職員が減らされている。独法職場の実情をしっかりと訴え多くの署名を集約したい(運輸研究機関支部)など、あらためて体制拡充署名の意義と重要性を確認し合い、あわせて、前年度の反省をふまえつつ、より活発なとりくみを行うことを全体で意志統一しました。



丁寧な説明と機関紙の重要性を訴える
神戸管制支部
中釜支部長

にも協力をいただきながら育成をすすめた(中国運輸支部)、「ツナガール・ユニオン・プロジェクト」として組織の拡大をすすめている。名称は広がっているが、とりくみの内容が広まっていないので、引き続き各職場に顔をだして説明していきたい(九州地協)など、報告されました。

とりくみへの奮闘、その成果や期待などが共有されたことで、また一歩、組織拡大への道が前進したことを全体で確信しました。



地域を越えて協力していくことを求める
関東地協
平尾事務局長

組織拡大・強化をもとにした運動の活性化により労働条件改善を実現するため、今後も奮闘する決意を固めたい(会)を促すことになりました。

いわき市内で開催された建設研究交流集會に参加した。

かつて福島県内に六年間勤務したが地元高校生の「復興は少女たちの笑顔が作る」のフランドンスに理由もわからず涙が溢れた▼今秋ラガールの舞台上映があった。観覧したあるアイドルは「感動が胸に直接届いてきてグッときた」とツイートした。キャストの熱演は多くの観客の心に響いたに違いない▼集會の帰りに過去に出張した市内の職場をアポなし訪問した。元々は測候所だったが東日本大震災で被災した職場はその地に移転していた。震災の数年前に福島県国公役員として気象のなかまと会った記憶が甦る▼職場でかつてお世話になった先輩方と談笑する。懐かしい気持ち溢れ出し職場復帰が叶わぬ寂しさも忘れた。原発関係で住民運動を展開した採用時の上司は週に二度職場を訪れるという。会えなかったことが心残りだ▼黄昏時に職場を背に近くの歩道橋から周辺を見渡す。そこに大震災前の風景は微塵もない。わが組織は大震災の年の秋に大同団結した。その意義と意味を忘れていないか。私たちもフランドルのように人々の心に響く熱い運動を進めたい(G)